

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0893400036		
法人名	社会福祉法人 清河会		
事業所名	サングリーンピア大子ケアセンター	ユニット名(グループホーム)	
所在地	茨城県久慈郡大子町頃藤4144		
自己評価作成日	平成 30年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JgyosvoCd=0893400036-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地元住民の協力で施設の隣に畑をお借りして、季節ごとの野菜を作り、草引きから耕土などボランティアで管理していただき、1年中新鮮な野菜を収穫でき、旬の野菜をふんだんに使った味噌汁や漬物などで食を楽しませて頂いております。里芋の茎の皮を剥き、芋がらつくりなども行なっております。

・環境に恵まれ、近隣の小中学校、保育園の運動会や発表会、収穫祭等に参加して地元の方と交流を持ち、又、慰問を受け入れるなどして地域とのつながりを大切にしています。

・天気の良い日には屋外に出てシャボン玉やボール遊び、散歩など屋外に出る機会を作っております

・職員が季節の野菜や果物を持ち寄り、干し柿つくりや、栗の皮むき、野菜の下ごしらえなどを一緒にして頂いたり、駐車場のふきのとうや餅草摘みなど行なっていただき季節を感じて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、元ドライブインの跡地を利用しており、敷地が広く風光明媚な奥久慈の景観が周囲を囲んでおり、四季の移ろいを肌で感じる事ができる。小中学校・特別支援学校の運動会や収穫祭に招待があり参加している。琴およびシルバーリハビリ体操のボランティアや高校の職場体験があり、近隣住民との交流が盛んに行われている。利用者は、干し柿や芋がらを作り、自宅にいるような雰囲気を楽しむ事が出来るよう支援している。職員は気さくで明るく、笑い声が絶えない雰囲気になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所職員が作成した理念を事業所内の見やすい場所に掲示と、職員証ホルダーケースに常備して、各自で黙読、復唱しております。又、毎月の職員ミーティング時に唱和して共有を図りながら理念に添ったサービスを実践しております	開設時に職員で話し合っ決めて理念を、職員が揃う昼礼時に唱和するほか、居間兼食堂に掲示して共有し、理念に沿った支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	近隣保育所や小中学校の運動会の玉手箱に参加、観戦して地域の方との交流を図っております。施設納涼祭や敬老祝賀会には地域の方にも参加して頂き交流を図っております。地域の方の協力を頂き、畑作りも楽しんでおります。	地域の保育園児や小・中学生、高校生等が訪れ、利用者と交流している。老人会と協力して畑を管理し、収穫を行っている。琴の演奏やシルバーリハビリ体操などのボランティアが来訪している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や相談に来所された方へ、認知症の症状の理解や支援方をお話させていただいております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催時には写真入りの「センター便り」を配布して利用者様の生活の様子や事業内容をお伝えしております。評価内容なども細やかに説明報告しております。利用者様2名も会議に参加して頂いております。	家族等の代表や利用者、町職員、地域包括支援センター職員、民生委員等が参加して、行事や利用者の状況等について報告を行っている。委員からの意見を受けて、認知症の勉強会を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町役場担当者や包括支援センターから、町の福祉関連の情報を頂いております。役場窓口訪問や電話にて介護保険認定情報や利用状況、待機者状況報告等を行っております。	市町村の担当者が運営推進会議に出席し、町の福祉関係の情報をもらっている。入退居情報の提出や待機者状況報告および要介護更新申請などで訪問しており、なんでも相談できる関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時の重要事項説明書にて身体拘束禁止について説明を行い同意を頂いております。身体拘束防止マニュアルを事業所内目に付くところへ掲示、勉強会などで具体的な行為の確認を行っております。玄関の施錠も時間を決めて開放、天気の良い日には外気浴を楽しむなど支援しております。	身体拘束排除に関するポスターを職員を目に付くところに貼っているほか、身体拘束防止マニュアルを作成して勉強会を行っている。日中は玄関を開錠し、センサー等も使用せず、職員の見守りで、利用者の安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外で高齢者虐待防止法について勉強する機会を設け、職員間で共通認識と理解が図れるよう努めてゆきます。日常の業務の中でも職員同士がお互いに注意を払いながら、虐待防止に努めております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外で権利擁護について勉強する機会を設け、職員間で共通の認識と理解が深められますよう努めてゆきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、重要事項説明書や契約書及び利用料金について、ご家族様や語利用者様の理解、納得が得られますよう十分な説明を行っております。内容の変更や改定等の際には事前に文書にてお知らせするよう契約書に明記、説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所、第三者委員の苦情相談窓口を明記して、契約時に説明しております。運営推進会議に家族様にも参加して頂き、町職員、民生委員、地域住民代表の方や事業所職員との意見交換の場を作っております。	重要事項説明書に、事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に家族等に説明している。家族等からは来訪した際に意見や要望を聴くよう努めている。家族等から面会のスペースを作って欲しいとの意見があり、反映した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や主任会議に参加して、職員からの意見や要望を聞く機会を設けております。又、職員一人一人と会話できる機会を作るよう心がけ、職員が気軽に意見を出せるよう努めて、必要な事項は代表者へとつなげております。	毎月の職員会議時や休憩時間等に話を聴くようにするとともに、年1回自己評価シートに職場環境や労働条件等への意見や異動の希望等を記入して提出してもらうようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートの提出を行い、職員個々の職場環境や労働条件などに対する意見や希望を参考として職員各自がやりがいや向上心を持って働けるよう環境や条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修に参加できるよう配慮しております。職場内研修や勉強会も随時行っております。職場内でも、常に職員の活動に目を配り、力量を把握して、必要な助言や指導を行なうよう努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の勉強会に積極的な参加を促し、他事業所とのネットワークづくりに取り組み、情報交換などを通じてサービスの質の向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の段階でご本人様との面談を行い、会話の中の何気ない言葉に耳を傾けご本人様の思いを感じ取り受け止められますよう受容と傾聴の姿勢に努めております。表情にも気を配り、確認しながら細やかな説明を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までの労をねぎらい、今後安心してサービスを利用していただけますよう、ご家族様の不安や要望を気兼ねなく話していただけるような関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談において、ご本人様やご家族様が、今必要としているであろうと思われるサービスを見極め、他のサービスや社会資源を必要としている場合には、情報提供や紹介などの対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の心身の状態に合わせて、日常生活の活動を共にして頂き、暮らしを共にするもの同士の関係づくりに努めております。長年培ってきた生活の知恵や工夫などを教えていただき、大先輩として敬いながら共に生活するものとしての関係を築いております。		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人様の生活の様子を記録して、ご家族様へお届けしております。又、ご本人様の心身の状態の変化や気付き等ご利用者様の思いなど、細やかに連絡を取り、常に情報を共有しながら支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた理美容院や主治医、歯科受診、馴染みの店での買い物等ができます様、予約や送迎、付き添いを行っております。ご家族様や馴染みの方との関係性を継続できます様、時間制限の無い面会や自宅外泊の送迎も行っております。	利用者の日々の会話や家族等から話を聴いている。かかりつけ医や馴染みの理・美容室へ外出している。家族等と正月に自宅へ外泊したり、墓参りに行くことなどが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を常に観察しながら把握して、座席の配置などに気を配っております。利用者様が孤立しないよう、職員が目配り気配りを行い利用者様と一緒にお茶を飲み声掛けなどで会話を楽しんでおります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約終了となられたり、他施設へ入所となられた後も、ご家族様などから様子を伺うなど、関係性を大切にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様お一人お一人の暮らしに対する意向を把握できます様、基本情報や生活歴などの情報入手や確認に努めております。毎日の何気ない会話の中や仕草、表情などからも思いを感じ取れますよう情報共有に努めております。	利用者の表情や態度などから思いを把握し、申し送りノートや個人記録に記録して職員間で共有している。思いや意向に沿って座席の配置に配慮するなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの時点から利用開始までに訪問などで、継続してご本人様、ご家族様への聞き取りなどで必要な情報の把握に努めております。担当ケアマネやサービス事業所との連携を図り、情報収集を行い現在に至るまでの経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分で出来る事と、支援が必要な事を抽出して、お一人お一人の生活リズム表を作成して職員間で共有しております。日々の生活の様子を記録して、申し送りにて情報を共有できます様努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を確認、毎月のモニタリング表や支援経過記録、ご本人様の言動を基に、課題を把握して職員で話し合い作成しております。利用者様の心身に変化が生じた時には見直しを行い現状に即した介護計画を作成するよう努めます。	毎月行うモニタリングや支援経過記録、利用者の状態や言動等を基に計画を作成している。基本1年で見直しを行っているが、利用者の状態に変化が生じた場合には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や変化、気づき等は個別記録へ記入、特に重要と思われる事柄は「申し送りノート」へ記入して、必ず全職員が目を通して各自確認のサインを義務付け情報の共有に努め、モニタリングにて介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の対応が困難な時の受診同行や買い物援助など、変化するニーズに応じ、柔軟な対応心掛けております。ご主人一人で生活している自宅への外泊のための送迎や入院時の洗濯物対応や介護用品補充なども行なっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用様が毎日安心して過ごす事ができます様、主治医や他医療機関、消防、関係機関との連携を図っております。通いなれた美容室の継続や近隣の小中学校、保育園などの行事に積極的に参加、地域ボランティアの受け入れも行なっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年信頼関係を築いてこられた「かかりつけ医」への受診を継続していただけますよう、支援しております。ご家族様対応を基本とし、受診時には生活状況をお伝えして情報提供しております。施設対応での受診の後には必ず報告をしております。	入居の際に、かかりつけ医の受診継続を支援している事を伝えている。受診時は状況に応じて家族等や職員が付き添っている。医師には医療情報提供書を渡して、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を取り入れ、訪問時には個々の情報提供を行い、特に気になる状態や変化が見られるときには、相談をして適切な医療や看護が受けられますよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院となった場合には安心して治療を受けられ、早期退院ができます様、医療機関への情報提供を行ないます。入院期間中、病院へ出向きご本人様の様子を確認したり、関係者からの聞き取りなどを行い、医療機関との連携を図れますよう支援させていただきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重要事項説明書において、事業所の終末期に向けた対応を明記して、ご家族様に説明を行い同意を頂いております。看取りについての事前確認書でご本人様・ご家族様の意向を確認しております。	看取りを行わない事業所であることを契約時に説明している。重度化した場合には隣接する同法人の特別養護老人ホームに移ることとしている。重度化した場合の対応に係る指針と終末期介護マニュアルを作成して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用様の急変や事故発生時に備えて、AED使用方法や緊急時の対応などの勉強会を定期的に行なっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定して夜間体制の避難訓練を全職員が体験して身につけられるよう年数回行い、年1回は消防署員や車両の派遣を要請して消火訓練等を行なっております。運営推進会議時に避難訓練を行い非常時の支援をお願いしております。	夜間や地震等を想定した避難訓練を、運営推進会議時に行い、近隣住民へも協力の呼びかけを行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合いを行っているが、出た課題を次の訓練に活かすまでには至っていない。	訓練で出た課題を次回の訓練の目標として掲げ、活かすことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様お一人お一人を個人として尊重して尊厳有る声掛けを行っております。入浴や排泄関係の声掛けは耳元で行なうなど羞恥心や自尊心に配慮しております。個人情報関係の書類は鍵のかかるキャビネットに保管しております。	日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。利用者本位を心がけ、嫌がることは強制しないよう努めている。職員雇用の際に、情報漏えい禁止について説明し、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご利用者様への話し掛けや係わる機会を多く持つ事で、ご利用者様の発する言葉や行動、表情にも気を配るよう努めております。外食時のメニュー選びや日中の過ごし方など可能な限り自己決定できます様働きかけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は強制する事無く、食後の自室でのテレビを見ながらの静養や施設内散歩など、お一人お一人のペースで過ごしていただけますよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせてご本人様の好みの服を着用できます様、ご家族様と連絡を取りながら、衣類の入れ替えや整理等の支援を行っております。常にご本人様専用のブラシを身近に置き、整髪していただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行可能な方には配膳下膳のお手伝いや、お盆拭き、野菜の下ごしらえなどを一緒に行なっていただきます。職員も一緒にテーブルで同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食事をしております。季節行事や旬を大事にした食事を心掛けております。	皆で干し柿や芋がらを作ったり、季節毎の行事食を作って食べるなどしている。ドライブを兼ねて外食に出かけるなど、食事を楽める工夫をしている。利用者は能力に合わせて手伝いを行い、職員は利用者と同じテーブルについて一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の好みや摂取量や状態に合わせて形状を変えたり、量の調整などを行っております。認知症の進行で食事摂取量が低下してしまっている利用者様には声掛けや時には介助にて支援しております。水分補給回数も多く取っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しております。自力歩行が可能な利用者様は日課となり自ら洗面台へ向かう姿が見られます。移動が難しい方には水と吐き出し用ボールを席に運ぶなど支援しております。夕食後は義歯洗浄剤にて消毒しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様個々の排泄パターンを記録、把握してリズムに合わせてトイレ誘導を行なっています。出来るだけ自力での上げ下げができます様、心身の状態に合わせた介護用品を使用しております。	排泄チェック表や個人記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけを行い、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に乳酸菌飲料、おやつにヨーグルトを提供、朝晩ラジオ体操や健康体操を実施、特に夕方の体操には腸の活動を促すように捻りを取り入れております。排泄管理表にて個々の排泄間隔を確認して、数日排便のない時には医師や看護師の指示を仰いで対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体的な負担を考慮して週2回程度の入浴としておりますがご希望によりいつでも入浴可能となっております。ご利用者様の希望や状態により臨機応変に対応させて頂いております。入浴剤や季節に合わせて菖蒲、柚子、リンゴ湯など楽しんで頂いております。	入浴は基本週2回としているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるように支援している。季節が感じられるよう、ゆず湯や菖蒲湯、地域柄りんご湯を行うなど、入浴が楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の意向や体調に合わせ、居室での休息を自由にお取り頂いております。夏の暑い時期や冬の寒い時期には就寝前にエアコンにて室温調整、冬はご希望者には湯たんぽ準備しております。夕方に良眠を誘う体操を取り入れております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の情報書をお預かりしてファイルに綴じ込み服薬情報を全職員が把握して、毎日管理を行っております。常にお一人お一人の状態把握に気を配り支援させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、掃除や洗濯干しやたたみ、炊事などお一人お一人の能力に応じ役割を持っていただき、張りの有る生活が送れますよう支援させて頂いております。裁縫の得意な方には縫い物や、料理の得意な方には調理の下準備などお手伝いを頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望を取り入れ、月1回外出を計画して職員同行で外出、外食の機会を作っています。ご利用者様の体調に合わせて、屋外散歩や近隣小学校の運動会や発表会、収穫祭等の行事に参加しております。	畑の手入れをするため外に出たり、生活用品や衣類などの買い物や散歩に出かけている。月行事のないときには必ずドライブと外食に出かけている。利用者の希望を聞き、季節に合わせた外出先を考えて年間行事計画を作成し、外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭能力の低下してしまっているご利用者様に対しては、ご家族様と話し合いの上、事業所において金銭管理を行ない、月一回収支報告を行っております。金銭管理をご希望の利用者様にはご家族様の理解の下外出時の買い物や支払いを行なって頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、いつでもご家族様へ電話をして会話する事で、家族とのつながりを感じていただけますよう支援しております。毎年暮れには直筆で家族宛の年賀状を投函してご家族様から喜ばれております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広いスペースで天窓が有り、明るい空間となっております。フロアには観葉植物や職員が持ち寄る季節の草花を飾り四季を感じて頂いております。入り口内外にベンチを設置しており、奥久慈の山々の景色を眺める利用者様もおります。ガラス張りの中庭も見渡せ季節や天候を感じていただけます。	玄関前に自動販売機を設置し、利用者が好きなきに飲み物を購入できるようになっている。観葉植物や鉢植えが置かれている。居間兼食堂は明るく、外の景観が眺められ、季節が感じられる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには大きなテーブルを設置して団欒がもてるようになっております。壁際にソファを設置してゆっくりと休憩したり、玄関内外にベンチを設置して、其々の場所で自由な時間を過ごして頂けますよう工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年自宅で使い慣れた思い入れの有る家具家財やお気に入りの品物を持ち込んで頂き、ご本人様ご家族様の好みの居室づくりを支援しております。ご家族様の写真を飾ったり、ご主人のお位牌を持ち込んでいる方もいらっしゃいます。	個人情報を守る観点から入り口には花の名前を掲示し、靴箱も同様になっている。居室からは四季折々の景観が見られる。利用者は寝具類や家具など、使い慣れたものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部壁には手摺を設置して自立歩行、下肢筋力低下等でふらつきが見られる方にはU字歩行器を準備して安全に移動ができます様配慮しております。バリアフリーで車椅子や歩行器利用の方でも自由に移動する事が出来ています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 サングリーンピア大子ケアセンター

作成日 平成 31年 1月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間や地震等を想定した避難訓練を、運営推進会議時に行い、近隣住民へも協力の呼びかけを行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合いを行っているが、出た課題を次の訓練に活かすまでには至っ	訓練で出た課題を次回の訓練の目標として掲げ、活かせるよう取り組む。	前回の訓練時に反省として出た課題を、訓練時に目標として掲げ、達成できるよう努めてゆく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。